

AMDA ダイジェスト

発行：1999年12月
 発行元：〒701-1202 岡山市橋津 310-1
 AMDA (アムダ)
 TEL086-284-8104 FAX086-284-8959
 Internet：http://www.amda.or.jp
 編集：AMDA 会員情報局
 E-mail：member@amda.or.jp

AMDA 子ども病院 プロジェクト

AMDAは21世紀を生きる子どもたちが元気で暮らせる平和な生活を願って国際協力活動を行っています。こうした目的の一つとして母と子のための『子ども病院プロジェクト』をネパール、ミャンマー、ウガンダで行っています。開発途上国では小児科病院が不足しており、乳幼児の死亡率が先進国の20倍を越えているといわれています。途上国の子どもたちとその母親たちの命と健康のために子ども病院を建設し、診療を行うと共に母親への育児、保健衛生、家族計画等の指導を継続的に行っていこうとしています。



■ウガンダ子ども病院

(現地名：AMDA 子どもの家)

HIV/AIDSによる子どもの感染者が多いだけでなく、子ども病院がないウガンダにおいて、ウガンダ医師会の協力やムコノ県から病院用の土地を提供され、また日本から毎日新聞社の支援や建築家坂茂氏のボランティアによる設計協力を得て、ウガンダ子ども病院が完成、9月28日に開所式を行った。現在は外来部門の診療とHIV患者の在宅ケアを現地政府・NGOと協力して実施。

(写真左)

■ミャンマー子ども病院開院

ミャンマー中央部の乾燥地帯にメツティラ市があります。人口約30万人の地方都市ですが住民の3分の2の人は市街地から遠く離れた村々に住み、農業によって生計をたてています。農村に住む人は医療サービスを受ける機会が十分に与えられておらず、病気になったときには40Km以上の道のりを仕事を休んで病院まで通わなくてはなりません。病院にかかったり薬を買うためのお金が足りないために、かなり重症になってから慌てて病院に駆け込む人が多いようです。特に痛みや苦しみを旨く訴えられない小さな子どもたちは、手遅れになってしまうことも少なくありません。驚くべきことは、メツティラ市では昨年1年間だけで5歳未満の子どもが1,400人以上も亡くなっているのです。なんと毎日約4人の子どもが、そのほとんどは風邪や下痢をこじらせただけのことで命をおとっているのです。

そんな子どもたちを救いたいと、メツティラ市民病院にAMDAが産経新聞社からの「明美ちゃん基金」と草の根無償資金を始めとした多くの支援者に支えられて小児病棟を建てることができ、11月13日、開院セレモニーを行いました。

ミャンマーに子ども病院ができることで、子どもたちが一人でも元気に育ってくれればと願うばかりです。病院はやっと開院ただけで、設備機械の導入やスタッフのトレーニングなど、まだまだすることはいっぱいあります。お金のない患者さんにどうやって薬を買ってあげられるか。交通費も出せない人をどのように助けられるかなど解決しなければならない難しい問題も山積みです。こちらの子供たちは300チャットあれば病院に来て薬を買うことが出来ます。日本で缶ジュースを1本買うだけのお金で一人の命が救えるか

もしれないのです。AMDAミャンマーは開院後のこれからが本番と思いを新たにしています。ミャンマー子ども病院へのご支援をお待ちしています。

(医師 上田 明彦)

■ネパール子ども病院1周年

「毎日新聞社と毎日新聞社会事業団の飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」の支援を受けると共に多くのの方々のご寄付のもと、昨年11月に開所式を行ったネパール子ども病院も一周年を迎えることが出来ました。病院の現地スタッフや日本からの多くのボランティアスタッフの皆さんの努力で診療内容も徐々に充実したのにもなってきたと報告されています。また、病院に来ることのできない子どもたちのために「子ども病院に救急車を贈る会」が中心となり、ネパール子ども病院をレポートしたOHK開局30周年記念特別番組『微笑みを返したい!』を作成された岡山放送、「なにわ人形芝居フェスティバル運営委員会」のご支援も得て、一周年の記念式典に救急車が贈られました。

病院建設支援に留まらず病院運営にも引き続きご支援下さる皆様にスタッフ一同感謝しております。ありがとうございました。



緊急救援活動

本年度は、4月にコソボ難民緊急救援を開始したのを始めとしてトルコ大地震、東ティモール避難民、台湾大地震、インドサイクロン、ベトナム大洪水と6つの緊急救援活動を実施、継続しています。

■コソボ難民救援

4月4日よりアルバニアに流出しているコソボ難民にアルバニア・ドュラスにて医療支援を行っていたAMDAは、6月18日コソボ自治州プリズレン市に入った。通訳アギム氏の家を活動拠点として必要とされる場所を調査しながら数カ所の村で診療活動を続けた。現在ベオグラードにおいてPTSD診療(心に傷を受けた人のケア)を行っている。

『ここで私たちは何ができるだろう』 調整員 佐藤麻理
(AMDA ジャーナル9月号P13 クルーシャ診療所の活動より抜粋)

8月16日でクルーシャ村の診療活動を始めてちょうど1ヶ月になる。AMDAでは診療活動だけでなく村の中を歩き、村人の家を訪問し、彼らの生活環境を実際に見聞きました。その中で「焼きたてのおいしいパンを子どもたちに食べて欲しい!」と思い付きました。この村でパンの配給がないことを知り、また家、家族の条件によって暮らしに歴然と格差が生れていることも分かったからでした。パンの配給に関しては村の代表者や配給担当の方とも十分に話し合った結果、貧しくて困っている家族およそ100軒をリストアップしてもらい、一軒に3本を配ることにしました。パンを受け取りに来た子どもたちは恥ずかしそうに「ありがとう」とお礼を云って大きなパンを抱えて帰って行きました。この村でも多くの犠牲者が出ており子どもたちは立派に「大人のかわり」をつとめています。過酷な避難生活の中でも子どもたちの笑顔が、唯一悲嘆にくれる大人たちを支えていました。そんな子どもたちに(病気の子どもたちを診るだけでなく)焼き立ての美味しいパンを食べてもらいたかったのです。



コソボ

■トルコ西部地震救援

医師 上田 明彦

(AMDA ジャーナル10月号P14 トルコ西部地震緊急救援報告より抜粋)

8月17日にトルコ共和国北西部で起こった地震に対し、20日より12日間、最も被害が大きかった町のひとつギョルジュクでコソボ自治州、アルバニア、トルコの医師を含む多国籍チームによる医療救援活動を行った。村の診療所、被災地避難所での診療および巡回診療など最大規模のときは5ヶ所で医療活動を展開した。

4年前に阪神淡路大震災を経験した日本から、トルコの救援に駆け付けられたことは意義深いことと考えられる。村人は日本で地震が多いことをよく知っており、いろいろなことを質問された。地震の被災者に必要とされた医療は阪神の時と大きく異ならず、初期に外科・整形外科、ついで慢性疾患を含む内科系疾患への対応が要求され、2週間を経過したところからは中長期的視野に立った精神科の重要性が増しつつある。

大地震における緊急救援においては、被害規模に関する初期の状況判断と援助開始の決定とをできる限り迅速に行うことが非常に重要であるとあらためて痛感した。

東ティモール



■東ティモール避難民救援

調整員 栄永唯利

(AMDA ジャーナル11月号P6 東ティモール避難民緊急救援チーム活動報告より抜粋)

東ティモールの紛争は大量の住民の西ティモールへの流入を生んだ。9月末時点で西ティモールへ移動した住民の数は20万人以上と云われている。西ティモールには各地に避難民キャンプが設置され、インドネシア政府及び国際機関、各国NGOによる支援が始まった。AMDAは9月17日より緊急救援活動を開始した。(中略)

日本人医療チームはAMDAインドネシアチームと共にケファメナ郊外のナエン・キャンプでの診療活動を行った。ナエンはこの地域で最も早く開設されたキャンプで既に8千人近い避難民を抱えている。診療所はAMDAチーム到着前から診療を開始していたが、医師の恒常的な不足に悩まされていた。派遣チームの到着以来、患者数は毎日100人以上となり、徐々に診療所に対する信頼も増してきた。政府からは毎日交代で3~6名の看護婦が派遣されており、保健省との連絡用無線も設置されている。我々は言葉の問題も抱えていたが(英語~インドネシア語~ティモール語と2段階の通訳が必要)、徐々に必要なティモール語を習得し、現地スタッフの協力もあり診療活動には支障はなかった。

薬剤はAMDAインドネシアが充分な量を持ち込んでいたが、診療所に来る患者の半分以上は乳幼児であるため、処方の際にシロップの分配容器等の小物が不足していた。

派遣チームはナエンキャンプを活動拠点としながら避難民キャンプの状況を調査し、今後の必要な支援のあり方を検討した。



トルコ



これから冬に向けて住居の問題や、長期的に生活をどのように支援して

行くのが重要になってくるであろう。経験を生かした日本からの支援がいっそう求められる。また、ともすれば忘れがちな災害への備えの大切さを再確認した活動であった。

AMDA 1999 年度活動国紹介

●カンボジア

首都プノンペンでクリニックを運営。コンボンスプー州にてデイケアセンター（保育所）を運営。さらに地方の地雷被災者等障害者に対して、巡回診療を開始。またタケオ州アングロカル行政地区において、ADB（アジア開発銀行）及びカンボジア保健省の委託を受け、同地区全体の保健衛生向上事業を4年間実施。

●ネパール

ルンビニ県プトフル市に建設したネパール子ども病院の運営。東部のダマック市のAMDAダマック病院では、ブータン難民と同国東部の地元民に対して医療支援。トレーニング・センターでの研修プログラムを継続。カトマンズ事務所兼診療所では、歯科診療も実施。

●ミャンマー

メツティラの無医村での巡回診療、栄養失調児への栄養給食活動を実施。ミャンマー子ども病院を11月に開所。

●アフガニスタン

アズラにて、簡易保健所・診療所、病院など荒廃した医療施設の復興支援を、またアフガニスタン人医療従事者へのトレーニングも実施。テイジンにて二つの診療所の復興支援を行う。

●パキスタン

ベジャワールにあるジャハド・ケリー・キャンプでアフガン難民に対して保健医療サービスを行なう。本国帰還を視野に長期の内戦で失われた医療の知識、技術、従事者数の回復を目指す。「開発途上国への医療と教育」と題した国際会議を開催。

●ジブチ

アリサビエ市近郊にある2箇所の難民キャンプで医療活動を実施。また首都ジブチ市にあるダルエルハナン病院に産婦人科医を継続派遣し、医療スタッフのトレーニングも実施。

●ケニア

ナイロビ市近郊にあるケニア最大のスラムであるキベラ地区で女性を対象に職業訓練および衛生教育を実施し、希望者には経済的自立を期待してマイクロクレジット（小規模貸付け）を行う。また貧困層の男性を対象に木工の職業訓練とマイクロクレジットの実施。

●ウガンダ

HIV感染者やその家族（特に子ども）をケアできるウガンダ子ども病院を建設、運営。

●ルワンダ

首都キガリ市において、貧困層の女性に裁縫訓練、衛生教育、マイクロクレジットを実施。キガリ近郊にて貧困層の男性を中心に木工の職業訓練も実施。

●ザンビア

首都ルサカ近郊の貧困居住区のひとつ、ジョージ・コンバウンドで洋裁教育、保健衛生教育、マイクロクレジットを実施。コミュニティー農園に関しては、栄養失調児の減少を目指し、作物の栽培と栄養教育を実施。さらに要望が高いことからコミュニティー・ヘルス・ワーカーを対象に識字教育を行なう。

●ボリビア

一般医師への研修の他、インストラクターの養成および消防・警察等救急救命関係者への講習などを行い、救急救命技術の普及を図る。

●ペルー

現地カウンターパートと首都リマ周辺の低所得者居住区でレントゲン車による巡回診療を行い結核患者の発見に努める。貧困地区ではヘルス・キャンペーンを実施し保健衛生知識の指導を実施。青少年とその保護者にエイズ予防プログラムを実施。

●ホンジュラス

昨年11月のハリケーン被害の後の調査に基づいて災害医療、環境保健衛生上の問題点を見だし、政府、地域住民を含む関係者とネットワークを構築し、防災システムの整備を進める。加えて、住民参加の防災訓練を実施。草の根無償資金による巡回診療を実施する。



■台湾地震救援

医師 三宅 和久

(AMDA ジャーナル11月号P2台湾大地震救援活動報告より抜粋)

9月21日午前1時45分台湾中部の南投県集集にてマグニチュード7.6の地震が発生。被害地域は南投県のみならず、台中県、さらに台北県にも及んだ。AMDAは緊急医療チームの派遣を決定した。

被災地での救援活動に関しては台湾政府、民間団体共に動きが極めて早く、効率的であった。そのため我々が治療を開始した地震3日目の朝には、重傷者はすでに病院に収容されており、病院内のスタッフも足りているので、病院外の避難所や、病院が被災して機能しなくなった町や村で診療を行ったが、外科的には骨折や軽い切創、挫滅創、内科的には不安神経症や、戸外での避難生活による上気道炎、病院に行けず薬が切れたことによる高血圧などが主だった。台湾はまだ暑い時期だったにも関わらず、清潔な飲料水や食料、簡易トイレが地震後すぐに供給されたため、消化器感染症はほとんど無かった。

台湾



■インドサイクロン緊急救援

ベトナム大洪水緊急救援 開始

11月10日、AMDAでは新たに2つの緊急救援を開始した。
◎インドサイクロン救援：AMDAインドの要請を受けて10月29日にインド東部オリッサ州に発生した大型サイクロンによる被災者救援のために多国籍緊急救援チームを派遣した。

◎ベトナム大洪水救援：ベトナム中部で11月2日から降り続いた集中豪雨による被災者救援のため救援医療チームを派遣した。この大雨による被害は甚大で、8日現在で既に死者500名を越えているという。医療面においても風土病と相乗した伝染病の蔓延が危惧され、早急な対策が必要とされている。

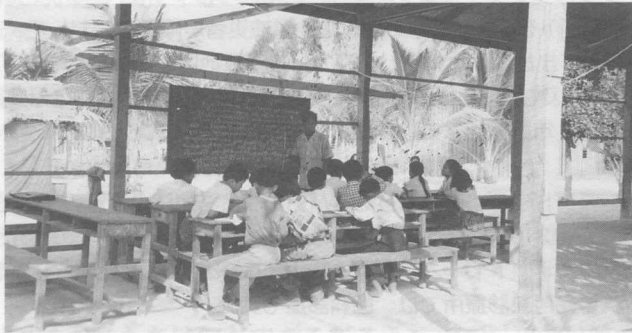
アジア

アフリカ

南米

カンボジアの子どもたちに小学校を!

AMDA 高校生会



今夏、他県の皆さんにAMDAとAMDA高校生会の活動を知っていただくこと、広島市を自転車で訪れ、AMDAの活動を紹介するとともに、高校生会が支援している『カンボジアの小学校再建プロジェクト』への募金を呼びかけました。自転車で、しかも他県であるということで、具体的な計画となるまでにはメンバー達は何度もミーティングを重ねたようです。そして多くの方々よりご助言、ご協力をいただきながら無事終了することができました。

高校生会がカンボジア・チャンバック小学校再建プロジェクトへの支援活動を始めたのは、AMDAカンボジア支部からの「カンボジアの首都プノンペンの西南、コンボンスプー州にAMDAカンボジア支部が支援しているデイケアセンターがあり、このセンターの子どもたちも通っているチャンバック小学校がある。小学校の校舎は床や壁が壊れ、屋根も崩壊寸前という状況で、1日も早い再建が望まれる」という報告を聞いたからです。高校生会では11月にも岡山市内で募金活動をするなど小学校再建支援活動を行っている。

ジャスコ岡山店でもパネル展と支援バザー

ジャスコ岡山店でも、ジャスコ23周年記念イベントの一環としてカンボジア・チャンバック小学校再建支援を目的としたパネル展が11月3日から1ヶ月間、バザーが12月3日～6日の4日間開催されました。ジャスコでは今までもAMDAネパール子ども病院建設・ルワンダ難民・ザンビアやコソボ難民の子どもたちへの支援バザーを行って下さっています。

AMDA

神奈川支部便り

横浜国際協力まつり '99 報告

AMDA 神奈川支部 篠原真理子

秋晴れの10月30・31日、横浜市の山下公園前の産業貿易センタービルにて『横浜国際協力まつり '99』が開催され、参加団体73、2日間の来訪者7,200名と盛況のうちに終了しました。

AMDA神奈川支部は昨年について2回目の参加で、今回はAMDA欧州担当顧問の小川秀樹さんに「コソボ難民支援にAMDAはどのように取り組んだか」というテーマで1時間のセミナーをお願いしました。内容はコソボ紛争でのAMDAの動きや調整員の仕事についてであり、ギリシャから空路アルバニアに入国したことや、現地で診療の拠点を決めたり、コソボ人医師と共に診療活動を行ったことなど緊急救援活動に実際行かれた方からの貴重なお話を伺えました。

ブースではAMDA入会パンフレットと神奈川支部の活動紹介のチラシを配布したり、不用品バザーを行いました。他ブースがフェアトレードなどの各国民芸品や手工芸品のきれいな品々を並べる中で、新中古品、デットストック物が主のAMDAブースはカーブーツセールか露店のように異彩を放っており好評でした。

他NGOの方やブースを訪れAMDAに興味をもって下さった方との出会いや交流も楽しめ、神奈川支部としての役割を少しでも果たせたのではと評価しています。足を運んで下さった方、バザー品を提供して下さった方、購入して下さった方に感謝致します。

(AMDA ジャーナル12月号P22より抜粋)

寄付のお願い

皆様のご支援を待っている

人たちがたくさんいます!

- 1、AMDA 子ども病院プロジェクト
(ネパール・ミャンマー・ウガンダ)
- 2、自立支援(ABC)プロジェクト
(職業訓練・小規模融資)
- 3、地域医療プロジェクト
(開発途上国での診療活動・保健衛生教育)
- 4、地域開発プロジェクト
(開発途上国での生活改善指導)
- 5、緊急救援プロジェクト
(自然・人的災害等、被災者への医療活動)

※上記プロジェクトへのご寄付は、1～5の番号を明記の上、

・郵便振替 口座番号01250-2-40709 口座名AMDA
までお願いします。

AMDAは皆様一人一人の心を大きな国際協力の力として、開発途上国の人たちに届けます。

あなたもできる国際協力

001 KDD ボランティアダイヤル

001国際電話、001市外電話、ご利用額の3%が援助金(全額KDDにて負担)としてAMDAに寄付されます。

●お問い合わせは

KDD 岡山支店 TEL 086-226-0070

皆様からのお便りをお持ちしています!

— AMDA 会員情報局 —

今年6月よりAMDA事務局は『会員情報局』を設置し、AMDAジャーナル、ダイジェストの編集をはじめAMDA会員、支援者の皆様とAMDAとの情報交換を目的とした活動を始めました。

AMDA支部・クラブの方々、AMDA活動支援者の方々との窓口となる小池局長、AMDAホームページ担当の西村、AMDAジャーナル・ダイジェスト編集担当守屋の三人と数人のボランティアスタッフでイベント企画・実施、資料作成、ボランティア活動サポート等も行っています。また緊急救援活動の続いた今年は緊急救援派遣者の担当もしています。

このような会員情報局ですが『会員の皆様との窓口』という本来の目的を第一に活動していきます。AMDAの活動、ダイジェストへのご意見をどんどんお寄せ下さい。お待ちしております。

